

新聞で紹介されました

【令和5年6月9日（金） 南日本新聞】

6月7日に南極教室を行いました。南極の昭和基地と通山小学校をライブ中継でつなぎ、南極の様子や観測の内容、昭和基地の皆さんの生活などクイズも出してくださりながら、楽しみながら学ぶことができました。

普段は知ることができない南極のことですが、なんとなく身近に感じるとともに、たくさん知ることができ大変貴重な経験となりました。

南極から「こんにちは」

志布志・[]さんと通山小

昭和基地料理人ライブ交流

志布志市有明の通山小学校で、南極・昭和基地と衛星回線で結んだ「南極教室」が7日開かれた。第64次南極地域観測隊の調理担当、[]同市が、現地の食事事情や観測隊28人の仕事、暮らしを語り、全校児童が聞き入った。

兵庫県出身の[]さんは、調理担当は、鹿屋市で小料理屋を[]さんは、調理担当経営する。観測隊の調理者は2人おり、和洋中や担当として、昨年11月にカレーなど変化を意識し日本を出発、来年4月帰っているほか、日本から運国予定。長女の[]さんは野菜を大切に食べてが同校2年にいる縁で教いると紹介。刺し身の舟

カレー、舟盛り…多彩に「季節感じる工夫」

盛りやたこ焼きを振る舞うこともあり、「毎日の食事を楽しんでもらえるよう、季節を感じられる工夫もしている」と語った。6年の[]さんと[]さんは「初めて知ったことばかり。日本と南極は全然違うと思っていたが、食事や服が変わらないのが新鮮だった」と話した。

[]も中継を見守り「楽しく働く姿を見られて安心した」と話した。（福岡梓）

児童に手を振る中川潤さん（画面中央）ら観測隊
＝7日、志布志市有明の通山小学校



